

授業科目 スポーツ実践Ⅰ

【担当教員名】 和 唐 他	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・栄養・スポ・看護・社会
	開講時期	前期	必修・選択	選択必修
	単位数	1	時間数	30

<一般目標：G I O>

医療・福祉分野の職に携わるために必要となる、自らスポーツをコーディネートすることができる能力を身につけるため、競技スポーツのルール・施設・用具の概念を超えた、『ニュースポーツ』を実践することにより、その実践の仕方（ルール、マナー、場の設定、ゲームの進め方）や楽しみ方を体得し、高齢者や障害のある人を対象としたスポーツを体得する3年次開講「スポーツ支援」の導入講座に位置づける。また、車いすスポーツを体験し、障害者、高齢者のスポーツの強靱に触れる。

<行動目標：S B O>

1. 近代スポーツとしての競技スポーツとニュースポーツの違いを理解する。
2. ニュースポーツを行なうために必要なストレッチや準備運動を理解する。
3. ニュースポーツを行なうために必要なストレッチや準備運動を修得する。
4. 近代スポーツとしての競技スポーツとニュースポーツの違いを身体感覚として修得する。
5. ニュースポーツのルール、マナーを、実践しながら修得する。
6. スポーツ用車いすの構造、用途、目的などを理解し、代表的な車いすスポーツを体験する。
7. 車いすスポーツのルールやコートなどを工夫し、その魅力に触れる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション 近代スポーツとニュースポーツの違い	1	講義
2	ニュースポーツのためのトレーニング 準備運動、ストレッチング	23	講義・実習
3	ニュースポーツ1 一つ目のニュースポーツ体験	234	講義・実習
4	ニュースポーツ1 ルール、マナーの修得	345	講義・実習
5	ニュースポーツ1 場の設定、ゲームの進め方	345	講義・実習
6	ニュースポーツ1 新しいニュースポーツを創る 1	367	講義・実習
7	ニュースポーツ1 新しいニュースポーツを創る 2	367	講義・実習
8	車いすスポーツ 構造や使い方基本操作	234	講義・実習
9	車いすスポーツ 車いすバスケットボール①	345	講義・実習
10	車いすスポーツ 車いすバスケットボール②	345	講義・実習
11	同上③	367	講義・実習
12	同上④	367	講義・実習
13	同上後	8	実習
14	同上⑥	8	実習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書				
参考書	ニュースポーツ百科	清水良隆・紺野晃編著	大修館	1997 ¥3,200
	新しい軽スポーツのすすめ	仲野隆士・原田宗彦編著	杏林書院	1999 ¥2,300
その他の資料	A4サイズファイルに毎時配布の学習カードを綴る			

【評価方法】 出席状況、授業態度、レポート、スポーツに関わるボランティア活動のポイントから総合的に判断する。	【履修上の留意点】 スポーツ実践Ⅰとスポーツ実践Ⅱは、前期後期の違いで区別している。 Ⅰは前期、Ⅱは後期。
---	---